

会報第十六号

学生運動からみた高校教育

静岡県公立高等学校PTA会長連絡会

もくじ

一、開会あいさつ	一
二、講演	三
1. 日本の教育の当面する課題	三
2. 学生運動の背景	四
3. 高校生運動の現況と将来	一六
4. 高校生運動への対策	二二
三、質疑応答	二六
四、閉会あいさつ	四四

三（後略）



講演

「学生運動から見た高校教育」

東京教育大学 教育学部

講師 鈴木 博雄 先生

高等学校PTA会長研修会

期日 昭和四十四年二月十四日

会場 静岡高等学校、同窓会館

主催 静岡県公立高等学校PTA会長連絡会



開会あいさつ

会長 藤 森 常 次 郎

今日は、第三回の研修会を催しましたところ、県下全域から雨の中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私どもの研修会は毎年やっておりますように、それぞれの時に応じて会をもっております。今回は、この前にも申しあげましたように、講師先生をお願いいたしました。ごく新しいと言いますか、当面する問題につきまして、お話をうかがうことに相なりました。今は何と言いましても、高校も私どもが全くおろそかにできない時期に参っております。あの大学の状況を見ましても、あるいは、現今の世相を見ましても、私たち高校関係者は、対岸の火災として見過ごすことはできません。自分の身に火がつこうとしているような感じがいたします。

何か今まで私どもがそういうことを考えます時に、よその火事のような気持で、非常にそれについての関心が薄かったり、あるいはまた、勇気を出していいものを育てようという気持に欠けていたというような点もなかったのでもございません。私どもはこういう時期にさし迫った時に、一体どうあるべきかということ

を、PTAの立場として真剣に考えなくてはならないのであります。この前、ここでの研修会の時にも私は申しあげましたが、われわれが今日の世相を眺めて後悔したり、くやしがつたりしているということは、むしろ今まで、二十年の間、私どもがもう少し良識をもって良いものを育ててくることに欠けていたというようなことを反省しなけりやならんと思っております。と同時に、われわれは今後におきましても、もっと、父兄として、あるいはPTAの会員として、勇気を出して意志表示をし、良いものを育てあげていくということに全力を注がなくてはならぬと私は考えております。

なお、これからのあり方につきましても、ただ単に学校施設の拡充、あるいは後援をするということではなくて、最大の目的である、よりよい人を作るというところに、全力を注いでまいらなくてはならないと考えております。何と言いましても、対岸の火事のような態度で騒動を眺めたり、あるいは見物をするような気持ではもう通れなくなつたのです。それらにつきまして、後刻また、先生からいろいろお教えをいただくことと思ひます。もう時間も迫っておりますので、改めてでなく、この席から先生をご紹介申しあげたいと存じます。先生は、鈴木博雄先生と申しまして、東京教育大学にお勤めになつておられます。また先程、事務局長からお話もありましたように、いろいろな著書もたくさんお出しになつております。

先生はこの頃の時局下におきまして、一番適切な講師先生であると私も信じまして、ご無理を申しあげて今日お願いをいたしましたわけです。どうか先生のお話をご静聴いただきまして、また終りましてから、質問の機会等もあらうかと思ひますから、その中で、ご懇談、ご質問もいただくようお願いいたします。

大変早々からお集まりをいただきまして、開会が少々遅れましたけれども、只今から講演を拝聴することといたしますので、よろしくお願いいたします。

— 編 集 後 記 —

会長研修会の講演記録を会報第十六号として発行しました。

時宜に適した講師をご心配くださったのは、静岡高校の相佐校長さんで謹んで御礼申し上げます。

講師鈴木博雄先生には四月初めの多忙な折快よくご検閲くださいましたことを併せて御礼申し上げます。

会報第十六号

昭和四十四年四月二十日 印刷

昭和四十四年四月二十日 発行

発行者 静岡県公立高等学校PTA会長連絡会

静岡市追手町五番三号静岡県民会館内

〒四二〇 電話 静岡五二一八一六一番